

平成31年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

学校運営計画(4月)		評価(3月)		
学校運営方針	校訓「水平線上に突起をつくれ」の精神を重んじ、いかなる時代にあっても五常の徳目『仁・義・礼・智・信』を有し、地域はもとより国際社会に貢献する人物の育成に努める。			
昨年度の成果と課題	31年度 重点目標	具体的目標		
<p>昨年度は、部活動や学校行事等、生徒の主体的活動で意識が向上し、進路指導や広報活動の充実、地域・PTA・同窓会との連携強化により学校全体が活気づいた。</p> <p>本年度も、「新たな学び」や高大接続改革に対応した授業改善や創意工夫した教育活動を通して、さらに多くの生徒の第一希望進路の実現を達成させ、生徒・保護者・地域の期待や信頼に応える教育活動を展開する。そのためにも、さらに教職員一人ひとりが研修の充実に努め、チームワークを大切にし、教育の最前線に立っていることを自覚して、専門職としての自覚と誇りをもって教育に当たる。</p>	自ら考え、判断し、自分自身の行動に責任を持つことができる、主体性に富んだ人物の育成	職員研修等により教師の指導力向上を目指し、教育活動全体を通して生徒の「生きる力」を育む。		
	規律と責任を重んずる生徒の育成	挨拶の励行や、校則の遵守等、家庭と共同して基本的な生活習慣の確立と社会の規範意識の形成に努めるとともにボランティア活動にも積極的に取り組む生徒の育成に努める。		
	人権尊重の理念と人間尊重の精神に満ちた、感性豊かな人物の育成	教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安全・安心な学校づくりを目指す。		
	真理を探究することの喜びを体得できる生徒の育成	全校あげて「新たな学び」に基づく授業改善に努め、質の高い授業を実践する。「総合的な探究の時間」で新たな取組を創出する。		
	自分自身の資質と能力を十分に発揮し、自らの進路を明確な目標を持って選択できる生徒の育成	スーパー特進クラスの充実・発展に努めるとともに、全生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、個に応じた指導を徹底する。		
志を持って意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒の育成	「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成するため部活動加入率80%を目指すとともに、スーパー特進クラスが高い志を持ち、学習面において本校の牽引役となるよう指導に努める。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教 務	授業規律の確立と自己実現に向けた学習習慣の定着とAL型授業の実践を含めたわかりやすい授業の提供	授業規律を確立し、授業を中心とした「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を徹底させる。 授業改善アンケートを実施し、生徒の学習状況と授業改善を図る。 ICT機器を用いたAL型授業やグループ活動等を取り入れたAL型授業実践を通じて、わかりやすい授業を提供する。		
	地域の子供たちが田川高校に興味を持つことができる広報活動の展開とオープンスクールや学校説明会の充実	「田川高校へ行こう」の発行を中心とした広報活動を展開する。 中学3年生のみならず、中学2年生を対象としたオープンスクールや学校説明会を実施する。 地域の子供たちが田川高校に興味を持つことができる取組を実施する。		
	PTAとの連携を含めた教育環境の整備や学校行事の充実	学校行事などの教育活動をより効率的に推進するため、PTAとの連携を強化する。 新校舎移転を機に、教育環境の充実を図る。 学校行事等の精選を行い、取組の充実を図る。		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立や規範意識の形成に努めるとともに、ボランティア活動にも積極的に取り組む生徒を育成する。	計画を示すことで清掃ボランティア活動に取り組みやしやすい環境を整える。 挨拶の励行及び賞揚を図る。 正しい言葉遣いを継続的に指導し、生徒相互の人格を尊重した態度を身につけさせる。		
	教育相談機能を充実させるとともに、心の教育の推進に努め、人権尊重の精神の涵養と、豊かな感性を持った人物の育成に努め、安全・安心な学校づくりを目指す。	講演会などのホームルーム活動をおして、豊かな感性を育むとともに人権尊重の精神の育成を図る。 個人面談、「いじめ」に関するアンケート、学校生活アンケートなどを実施し、「いじめ」を未然に防止する。 生徒の状況について教師間で情報の共有をはかり、問題行動の未然防止、早期発見、問題解消を組織的に行う。 情報モラルの向上に向けた指導を積極的・定期的に行う。		
	「水平線上に突起をつくれ」の精神を喚起し、たくましい田川健児を育成する。	部活動ごとの休養日の設定や活動計画を取りまとめ、安全面や学習時間を考慮した部活動指導の在り方を検討する。 生徒が多様な活動に取り組むことができる環境を整える。 新入生オリエンテーション等で計画的な部活動紹介を実施するとともに、部活動生集会での意識の高揚を図る。		
進路指導	地域に根ざした進学校として、学力の伸長と徹底した進路指導に努め、生徒や保護者、地域の信頼に応える3年間を通したキャリア教育の実施	同窓会や、地域と連携し地域の信頼に応える生徒の育成を目指す。 広報課と連携し、本校の進路状況の集約・発信をおして、地域、企業との連携に努める。 オープンキャンパス、出前講義、大学説明会等への参加を促すとともに、高大連携事業の推進を図る。		
	進路目標達成のための基礎学力の養成及び計画的、組織的な教科指導の徹底	校内・校外模擬試験や課外授業等を計画、実施するとともに、模擬試験の分析を進路指導に活用する。 学びの基礎診断について教務部と連携して取り組み、生徒個々の状況を把握し、適切な進路選択へと導く。 AO入試、推薦入試について情報収集、指導法を研究し、対策の充実を図る。		
	進路意識高揚のための進路情報の収集とその提供 新しい受験制度についての情報収集、および対応に向けた取組の実施	卒業生による進路講演会や、シンポジウム等を企画し生徒の視野を広げる一助とする。 入試改革に関する教員向け研修会についての情報の周知をはかり、積極的な参加を促進する。 英語科と連携し、英語外部検定の受検を促進する。 模試データの活用について、職員向けの研修を実施し、進路指導のスキルアップを図る。		
	職員研修の充実	関係分掌と連携を図りながら効果的な校内職員研修会を企画・実施する。 外部機関が実施する教員研修セミナー等の案内を徹底し、教員の指導力向上を図る。 生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すため、各教科において年2回研究授業を実施する。 公開授業を通して、ICT機器の活用やアクティブラーニングの視点に沿った授業改善への取組の成果を地域に発信する。 研究授業及び各種研修会の報告や個人研究等を広く職員に求め、研究紀要にまとめる。		
第1学年	基本的な生活習慣と基礎学力の定着	図書委員のリーダーシップにより全校生徒・職員「朝の読書」の推進と充実に努める。 新校舎図書館への引越しを計画的に行い、利用しやすい環境整備を図る。 時間厳守・挨拶の励行を習慣化させるとともに規範意識の高揚を図る。 初期段階における学習方法の定着と継続する習慣を確立させる。 習熟度に応じた指導方法の工夫と研鑽によって自ら学ぶ意欲・態度を喚起する。		
	自己実現に向けた進路意識の向上	定期的な生徒個人面談を活用して、一人ひとりの生徒が早期に具体的目標を明確化できるように促す。 HR活動や総合的な探究の時間をとおして、進路についての幅広い知識を得させる。 諸活動への積極的参加と社会的貢献を促すことで精神的な向上を図る。		
第2学年	自律型学習習慣の確立	毎日の朝と帰りのHRの時間に全員購入させた手帳を活用し、その日の家庭学習時間の予定を立てさせるなど時間管理を指導する。 進研模試や外部英語検定の2、3週間前には、それぞれの該当教科が授業時間を利用して対策を立てる。 定期的な個人面談を年間3回以上は実施し、模試結果と志望校の格差をどう対処していくのかのアドバイスを随時与える。		
	基本的な生活習慣の確立	時間厳守を徹底させるために常に5分前行動を習慣化させる。 他人より先に挨拶するように意識させ、気持ち良い人間関係を構築させるきっかけとなるように指導する。 美化コンクール90点以上を常に意識させることで、自分の周囲の小さな物事に「気づく」姿勢を習慣化させる。 学習活動において生徒の意欲やニーズをもとに個に応じた指導の充実を図る。		
第3学年	生徒一人一人が大切にされていると実感できる学年	積極的な生徒指導に努め、生徒の生活背景や実態をつかみ、学年職員全体で関わる。 生徒の良さや可能性を認め、配慮のある授業や支援をすることにより自尊感情の高揚を図る。 生徒一人ひとりの個性や教育的ニーズを把握し、主体的な進路選択ができるように努める。 進路の資料、情報提示、学習方法の支援などにより、授業、家庭学習の充実を図る。 希望進路実現を達成し、高校生活を満喫できるように全職員で取り組む。		
	生徒の希望進路実現を目指す。	教育活動のあらゆる場面で人権・同和教育の視点を確立するため、各分掌・各学年・各教科と日常的な連携を図る。 家庭訪問を随時行うとともに、小・中学校や地域と連携し、生徒の諸課題の解決に努める。 教員が人権・同和教育に対する主体性を持つことができる研修を企画・運営する。 生徒の科学的認識を高め、差別を許さない姿勢が身につくような人権学習のために、指導法・教材の研究を行う。 毎日の授業が学力保障・人権感覚の育成につながるよう、教科の特性を活かした人権・同和教育を推進する。 個別の配慮を要する生徒を見守り、学校全体で支援できるように共通認識を図る。 地域の活動を行う生徒が反差別の行動力を高められるように、諸活動を支援する。 経済的に厳しい家庭の生徒を支援するため、給付型をはじめとする各種奨学金を周知し、積極的な活用を促す。		
人権・同和教育	校内及び校外の連携の強化			
	人権感覚を高める学校づくり			
	状況に応じた多方面からの生徒支援			